

平成 31 年2月1日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

はい。それでは、ただ今から市長定例記者会見を開催いたします。

先ほどもご案内したとおり、本日もライブで配信しておりますので、よろしくお願いいたします。

本日の話題は2件。それでは早速、市長よろしく願いいたします。

【市長】

はい。お願いします。

今日、時間 30 分前倒しをさせていただきましたことを、お許しいただきたいと存じます。というのは今日は目白押しでして、午後1時から井川で合併 50 周年の記念式典があります。今日で合併してちょうど 50 年と1ヶ月なんですね。今日、豪華版の記念式典を現地でやります。この中で取材にいらっしゃってくださる方おります？

残念だなあ。投げ込んだ報道資料には、「井川はがんばっています！ぜひ取材お願いしますと、添え書きをしておいたんですけどね。

今日、講演と演劇の2本立てなんです。講演は、中部電力の勝野社長が名古屋から来てくれる。そして、20 世紀の電源開発高度経済成長、日本経済を支えた一つのダムなわけですね、井川ダム。それによって水没をした方々もいらっしゃる。そういう中電と井川村の過去を振り返りながら、未来に向けてメッセージをというような井川と中部電力との関わりについての記念講演を前半もらって、後半は SPAC。宮城監督の SPAC が井川公演をしてくれるんですよ。それも「てしゃまんく」ってご存知ですか。新しい記者の皆さんは、知らないかもしれないので少し添えておくと、井川に伝わる伝説の主人公なんです。

その「てしゃまんく」を題材にした書下ろしのオリジナルの演劇作品を井川で披露してくれる。「てしゃまんくと浅間さんの石鳥居」というタイトルで。浅間さんはあの浅間神社ですね。

3時間の式典を、セレモニーだけで終わっちゃいけないからって、今日、計画をしたっていうくらい所管の課が準備をしてくれたんですが、私も当初は、今日、月初めでいろいろ公務が重なっていて、副市長が現地へ行くということだったんですけれども、しかし、先人たちの今までのご苦勞を思えば 50 周年、そして、今回トンネルの件も何とか解決に向けて歩み始めたということもありますしね。とにかく「私が行こう！」ということで、今日、行ってまいります。

なんと、雪が残っているそうですので片道2時間かかるんですよ。往復4時間、10 分の挨拶のために、でも行って参ります。ぜひ、これからでも遅くありません。私を追いかけて取材をしてくれば、うれしいなというふうに思います。

夜は、今日、いよいよ 11 時からサッカーアジアカップ決勝であります。静岡朝日テレビ一人勝ちでございます。北川航はいつ出てくるのか、楽しみであります。カタールもね、強化しているんでね。そう簡単ではないというふうに思いますけれども、少し時間が遅いからこそ私たちでもテレビの前で見れると思うんですけれども、ぜひ楽しみにしたいなというふうに思っています。

ぜひ、皆さま方も世界に挑む北川航也を森保ジャパンとともに、私たち静岡市も世界に挑む、世界に輝く静岡市づくりと、日本代表の若い選手に負けずにね、静岡市のアピールをしていきたいなというふうに思いますので、今日の記者会見もよろしくお願いいたします。

その一環としての話題であります。

1つ目、「三保松原の持続可能な保全に向けて」、「持続可能な」というのがキーワードですね。SDGsとまちづくりをタイアップしているというのも世界に挑んでいくという我々の取り組みなのでありますけれども、SDGsの「S」はご存知のとおりサステナブルと、この“サステナブル”というのが“持続可能な”ということでもあります。

来月に迫った三保松原文化創造センター、いわゆるビジターセンターのオープンに合わせ、その一角に松原を保全する新たな組織「三保松原保全研究機構」を併設することにいたしましたので報告します。これは、とてもユニークな組織であります。

松原を保全するという一点の目的のために2つの、1つは、たいへん専門知識を有している専門性の高いスタッフの方々に力添えをいただいて保全業務にあたるということ。もう一つは、広く地元の市民をはじめ地域の方々、住民の方々と連携をして、この松原を日常的に手入れしていく、管理をしていく。その専門性の高い保全業務と日常的な市民による管理というものを両立させて取り組む拠点を作るというのが、この組織であり、このような拠点組織・保全組織というのは全国で初めての試みであります。

振り返ってみますと、6年前、2013年、平成25年、世界文化遺産に三保松原逆転登録いただいたものの、当時、松はかなり弱っていました。マツ材線虫病などにより、1年間におよそ200本松が枯れているという状態だったわけですね。世界遺産になったんだから何とかしなきゃいけないと、そこをスタートにして、この6年間、県とも連携して松枯れ対策に力を入れてきました。無人ヘリによる薬剤を散布したり、徹底した伐倒処分をしたり、様々なアドバイスをいただきながら力を入れてきました。その結果、昨年度には松枯れは5分の1、年間20本程度に減少することができました。当初の数値目標は、「松枯れを1ヘクタールあたり1本以下にする」というものでしたので、それは達成することができました。

しかし、そこで満足しては、そこで留まっていたはならないというのが今回この組織を設立した大きな理由であります。私たちの目指すべきビジョンは、古の旅人たちが偶然、三保の海岸に出たときに、緑と青と白のコントラスト、松原と遠くに見える富士山がドーンと織りなすこの調和、あれに圧倒されてインスピレーションを受けて絵画を描いたり、歌を詠んだりしたわけですよね。今の私たちは、すごく芸術的なセンスがある人であっても、じゃあ、あそこの海岸に出て、今日みたいに天気がいい日だと、「うわあ凄い風景だな」と息をのんで絵を描きたくなりますか？歌を詠んでみたくありませんか？そういうモードに戻していかなければいけないわけですよね。

ですから、次のステップである松原の再生に取り組むためには、様々な専門的な知見を蓄積し、今後、持続可能に保全をしていくという必要があります。その役割を担うべく、この三保松原保全研究機構を設立しました。まさに、“松原の保全なくして活用なし”であります。実はベースになったのは2013年登録されてから作った松原保全活用計画なんですね。保全と活用というのは、やっぱりセッ

トでなければいけないわけですね。もちろん、世界遺産になりましたっていうアピールによって求心力が強まりましたので、たくさんの観光客が三保松原を訪れてくれるようになったし、この三保松原文化創造センターもそういう一つの受け入れ施設になりますけれども、一方で、これからも多くの方々に来訪してもらうためには、その価値の源泉である松原というものの保全が不可欠だということでもあります。ですから、この保全に向けては全国レベルの専門家、エキスパートを外部から招聘するとともに、静岡市の行政職員の中からも専門的な技術職員をその機構に出向させていきたいというふうに考えています。同時に、静岡県の方にも技術系の職員の派遣を、今、依頼をしているところでもあります。

そして、この機構に与えられるミッションは主に3つであります。お手元の配布資料には、4つにまとめてありますけれども、主には3つであります。公益事業、研究開発事業、そして受託事業ですね。

1つ目の公益事業は、地元の住民の皆さんやNPOや企業の皆さんの保全活動を、これからも支援をしていくとともに、松の保全や再生に関する調査研究を行うという事業です。

2つ目は、研究開発事業であります。マツ材線虫病に抵抗性を持つ松の開発であるとか、松の葉っぱ「松葉」を活用した商品の開発等々に取り組んでまいります。

さらに3つ目の受託事業では、これまでどおり市県連携で取り組んできた保全事業を引き継いでいきます。

だからこそ、現地に事務所を置いて、そして、そこで技術を今後も磨き、知見を重ね、先進的できめ細やかに持続可能な松原を保全していきたいというふうに思っています。

このようなミッションのもと、この組織の立ち上げに、はごろもフーズさんをはじめとする地元の有力企業も皆さん、賛同してくれました。多くの支援をいただいております。この機構が、将来、長期的な視点で主体的に松原の保全と計画実行していくことで、三保松原の自然が織り成す白砂青松と幾多の芸術の源泉となった文化的な価値を、次の世代を担う子どもたちに残していくことができると確信しております。取材をよろしくお願ひします、ということでもあります。

2つ目は、2月の補正予算です。市議会2月定例会に提出補正予算の規模は、一般会計が約4億3,000万円の増額、特別会計が約7億6,000万円の増額、企業会計が約1億円の減額、総額では、約10億9,000万円の増額となりました。

補正予算については、すでにかなり細かく財政局が記者レクをしているという報告をもらっておりますので、私は改めて概略を簡潔に報告いたします。少し重複をしますが、よろしくお願ひいたします。

今回の補正予算は、国の補正予算を最大限活用した3つの柱、「安心・安全」と「教育・子育て」、そして「地域経済の活性化」、この柱のもとに予算編成をしました。1つ目は、「安心・安全」です。自然災害や病気といったリスクから市民の皆さんの安心と安全を確保するため各種事業を実施していきます。

具体的には、国が実施する国道1号の整備に要する経費に対する負担金や、基幹林道の檜ノ木峠線の法面対策などに要する経費を計上しました。

一方、風しんの流行を受け、特に抗体保有率が低い、昭和 37 年4月2日から昭和 54 年4月1日生まれの男性に対する抗体検査と定期接種に要する経費を計上しました。

さらに、下水道管の耐震化として高松・城北処理区を対象に整備を進めていきます。

2つ目の柱は、「教育・子育て」です。安心で快適な教育、子育て環境のさらなる充実を図り、子育てしやすいまちづくりを推進します。具体的には、中田小学校など7校の小中学校校舎トイレリフレッシュ事業としてトイレの洋式化、あるいはトイレブースの改修を行います。

そして、3つ目は地域経済の活性化です。清水港における大型クルーズ客船数の増加に対応するため、国が実施する日の出岸壁の改良工事に対する負担金を計上しました。

この他にも、今回の補正予算では、新しい清水庁舎及び海洋文化施設の民間活力による PFI 手法で整備するため、実施方針等の検討や事業者の募集選定契約等の実施の支援を受けるアドバイザー業務を、債務負担行為にて計上し、清水区の地域経済活性化を加速させていきます。

また、県と協議を進めてきました子ども医療費助成制度の高校生世代への対象拡大について、今年の 10 月からの助成開始に向け、システム改修費を債務負担行為で計上しました。

その結果予算額の累計は、一般会計が約 3,232 億円、特別会計が約 2,426 億円、企業会計が約 780 億円、総額では約 6,438 億円となっております。以上、補正予算の概要です。

【司会】

それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、それでは続きまして幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さんよろしくお願ひします。

【幹事社(朝日新聞)】

今日は、市長、いつにもまして、何か非常にハイなので、何か好ましいことがあったのかなと思います。幹事社質問はですね、今、清水庁舎に入っている経済局のことですが、これは動くのか動かないのか。つまり、今ここにいる静岡庁舎に動くのか動かないのか。動くとなれば新しい清水庁舎でできからなのか、あるいはできる前に動くのか、その辺のところを市長のお考えをお聞かせください。

【市長】

はい、どうもありがとうございます。先日、市民の皆さんにお示しして、パブリックコメントを行った新清水庁舎建設基本計画においては、新清水庁舎への移転後の組織配置については、清水区域を所管する事務所や清水の港を生かしたまちづくりを進め国際海洋文化都市を実現していくための本庁組織を置く、というふうにしております。

このため、現在、経済局の海洋文化都市推進本部が担っている機能などにつきましては、移転後の清水庁舎にも引き続き配置をしていく方針です。

現在、海洋文化都市推進本部では、清水の経済活動を視野に入れた数々の施策を展開しており

ますが、経済や観光・港湾という清水区の強みである地域資源を生かした組織の強化、効率的な戦略的な観点から、特に、私は力を入れているところであります。

今後、中部横断自動車道の開通やフェリー乗りの移転など、各種のインフラ整備を控えた清水のまちは大きな変貌を遂げていくことになります。

それらに伴い、新しい庁舎の周辺の民間開発をはじめ、興津地区の興津清見が浜、我々は仮称を新興津ビーチ・パークと言いはじめておりますけれども、このビーチ・パークの整備、日の出のマリンパーク、そして興津のビーチ・パークと、この集客施設としてこれから期待をしていきたいわけがありますけど、その整備。日の出地区の海洋文化施設整備、現清水庁舎跡地の利活用、さらなる集客に向けた日本平公園の整備や新たな畑総合事業の推進など、官民合わせた清水のダイナミックなまちづくりを進めていきたいと考えております。

【朝日新聞】

追加で質問します。そうしますと、今、清水庁舎にいる経済局の職員は何人いて、今、海洋にも職員が何人いて、それが新庁舎ができた後、推進本部は何人になるのか。つまり、他の人たちは大半は静岡庁舎に戻って来ることになるのでしょうか。

【市長】

今、私が答えたのは、本当にこういう中長期的な見方で清水の賑わいを今まで以上に増やしていくというビジョンについてであります。その呼び水に新庁舎をしたいということでもあります。

この公共投資が呼び水になって、先ほど申し上げましたとおりオフィスビルが近隣にできるかもしれない。様々な東口開発がなされて人が集まる施設が張り付くかもしれない。トータルで見ると絶対に今の清水駅よりも賑わい、通勤通学のみならず賑わいをもたらすような、交流人口は増大をするというビジョンのもとで、この新庁舎いうものを先行投資していくという考え方を、ぜひ報道していただきたいとお願いいたします。

【朝日新聞】

わかりました。

経済局の今の人員とそれから(海洋文化都市)推進本部の今の人員を教えてください。

【市長】

これはすでに公開の資料でお手元にあるかと思います。

もうすでに公開してあるよね？

じゃあ、総務局長。

【総務局長】

人数につきましては、後ほどご提供させていただきます。

【司会】

ありがとうございました。

それではその他、各社さんからご質問がありましたらお願いしたいと思いますが・・・。

静岡新聞さん。

【静岡新聞】

今、市の方で生涯学習施設の利用法の見直しというのを検討していて、旧静岡市と旧清水市のやつを統一するというやつを先日、パブリックコメントを行っていたと思います。今、清水区の方では反対の署名活動なんかも行われて、12,000 筆を超えたという話もあるんですが、パブリックコメントの結果について、ちょっと教えていただければと思います。

【市長】

はい、わかりました。

この件については、ご質問のパブリックコメントの結果も踏まえて、私の考え方をこの際お答えをいたしたいと思います。

まずは、パブリックコメントの結果ですが、ご指摘のとおり平成 30 年 12 月 19 日から今年の 1 月 18 日までの 1 カ月間で実施し、372 人の方から 671 件のご意見をいただきました。

主な意見として、まず「利用方法の見直しについて」という項目では、“見直し案に賛同する”が 128 件、“施設使用料を負担することは当然と考える”が 135 件でした。

一方、“使用料は無料もしくは定額であって欲しい”が 35 件、“優先利用の制度の継続や年間予約制度を要望する”が併せて 32 件でありました。

そこで、今後も生涯学習施設をそれこそ持続可能な施設として市民の皆さんに大いに活用してもらい維持していくために、施設を利用する方に使用料の負担をお願いする基本的な考え方については、市民の皆さまにぜひご理解をいただきたいと思います。

しかし、今回、パブリックコメントをはじめ、多くの市民の皆さん(のご意見)を受け生涯学習の推進のために利用の申し込みの時期など、より利用しやすい仕組みをさらに考えていく必要があります、その検討には時間が必要と判断をいたしました。

そこで、これまで改正条例案を2月議会に上程するため準備を進めてまいりましたが、この度、延期をすることといたしました。今後につきましては、市民局に指示したところで内容や時期などについてはお示しできる時が来れば公表をさせていただきます。

なお、パブコメの詳しい内容については、会見終了後、所管局から説明をいたします。以上です。

【司会】

他にいかがでございましょうか。よろしいですか。

はい、静岡朝日テレビさん、どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

4月の市長選の件なんです、市長の対抗馬と言われていた難波副知事がですね、出馬しないという意向を明らかにしたんですが、このことについて田辺市長の見解を聞かせていただきたいと思っています。

【市長】

私は、どなたが対抗馬に出ても改選の時期ですので、今月半ば過ぎには、今ある銭座町の後援会事務所が手狭になりますので、この選挙の期間中、七間町の方に引っ越しをする準備を進めています。

今、着々と準備を進めているところであります。この前も申し上げましたとおり難波副知事には港湾整備等々、市と県の連携についてたいへんご尽力をいただきました。静岡市としてたいへん感謝しております。

【静岡朝日テレビ】

このことによってですね、あの無投票という可能性も出てきたんですが、この件についてはいかがですか。

【市長】

私は、この頃、まだまだ自分自身の肉声で静岡の市民の皆さんに、直接、私が描いている都市ビジョンを伝える機会が少ないなど。もっともっと地域に分け入って、直接、私の思いを伝える時には、かしこまったこういう席ではなくて食事をしながら一杯飲みながら、ざつくばらんに市民の皆さん、清水の皆さんに直接私の思いを聞いていただきたいというふうに思っています。

選挙戦というのは、その絶好のチャンスでもありますので、その期間を大いに活用させていただいて、一人でも多くの市民の皆さんと接触をしていきたい。そして、自分の気持ちを伝えていきたい。そして、「大丈夫だ、任せてくれ」というふうに訴えていきたいと思えます。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

いかがでしょうか。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。

次回、2月18日、月曜日、いつも通りの午前11時からとなりますのでよろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。